

香川大学連携・知的財産センター技術交流協力会 平成31年度運営委員会議事録

日時：平成31年4月17日（火）14：00～14：45

場所：香川大学産学連携・知的財産センター 3階セミナー室（研究交流棟3階）

出席者：16名

議事進行：瀧本朋樹（技術交流協力会幹事）

内容：

会員企業向けの新たな支援施策について

瀧本幹事より、会員企業様向けに積極的な還元ができていなかったのご意見をいただきたい。（方向性や現状への要望などについて）

現在の香川県内企業の問題点や課題について

- ・人材育成の強化を進めて行けたら良い。
- ・中小企業で新規人材を採るのが難しい。
- ・経済同友会では360社ほど入っているが個々の企業で苦勞している、特に製造業など。人材を採れないので事業展開も難しい。
- ・外国人にも求人を出している。専門の業者や広告を出しても良いがコストがかかりすぎる。
- ・勉強会をしたり情報を気軽に得られる機会を。
- ・コミュニティを使って多段階に回数発信など。
- ・就職で会社に来る人がいない、弊社は研究機関のため余計来ない。
- ・たくさん採用する訳ではないため個人の素養で判断する。
- ・人材が新規でもキャリアでも少ない。
- ・一社で技術開発はまかなえない。スピードが必要。
- ・ベンチャーは香川県内でほとんど会ったことがない。東京は多い。近くで情報があればいいが見つかる手段がない。
- ・技術系製造業系企業とはあまり実績がない、整理できていない。そちらは大学の方でやっていただければ。申請などはこちらでさせていただく。
- ・地方公共交通のインフラをしっかりとするため工事料がかかる。人が足りない。そのため基礎研究的な活動ができていない。まるごと大学に投げるのではなく自社と模索していきたい。
- ・大学と企業との交流、ツーリズム、アグリ系のベンチャーなど、アイデアを生かす場がない。ベンチャーのコミュニティがない。もっとマッチングさせるコーディネーターが四国にいてもいいのでは。
- ・KINGには香川大学の冠がついているのがミソ。地域に密着した情報を。学生・研究者・ベンチャーと企業と相互の情報の持ち寄りの場があると助かる。地場に足

をつけた協力会であるべき。

- ・今は学生が選んで就職であるが、各企業が大学に集まって企業の研究をアピールしたらいいのではないか。
- ・地元企業への貢献。情報の持ち寄り、企業の内容を知って貰うことが大事。
- ・県外の学生が多い。もっと自社を知っていただくことが大事。海外との付き合いが多いため学生の語学力が大切。
- ・企業と大学の先生方のマッチングをしてプロジェクトの支援。必ずしもマッチングしない。その場合香川大学とだめならほかの大学と。一大学以外との場の提供。
- ・ベンチャーを志す人が少ない。もっと活性化されればいい。
- ・情報をもっと発信、結果が得られる情報を積極的に発信する。
- ・イノベーションがインフォーマルでの交流の場、交流の場を作った上で全然関係のない技術者同士が話をして新しい発見をする。
- ・5：30クラブは技術者や若手も集まっているので活用したい。

「香川テックプランター」パートナー参画の提案と「ベンチャー・中小・中堅企業向け支援事業の紹介」があった。

(以上)